

# 倫理委員会審議申請書

祐生会みどりヶ丘病院  
倫理委員会 委員長殿

2024 年 7 月 26 日

## 申請者

所属 整形外科

氏名 池上 徹

所属長 藤岡幹浩



(印)



(印)

下記について審査を申請します

## 記

### 懸案事項

表面置換型人工股関節術後の大腿骨転子部骨折に対するEnder法

### 懸案事項に関する概要

表面置換型人工股関節(SHR)術後の大腿骨転子部骨折はまれです。SHR術後の大腿骨転子部骨折に対する治療法の選択として保存療法、ピンニング、髄内釘、sliding hip screw、人工股関節再置換術などが挙げられます。Ender法は古くから骨折治療に用いられる手術方法です。軟部組織に対する侵襲が少なく患者に負担が少ないことが特長です。高齢で認知症の既往がある患者にとって長期の臥床は全身状態や認知症の悪化が懸念されます。今回SHR術後に生じた大腿骨転子部骨折にたいしてEnder法をもちいて内固定を行った症例を経験したので学術論文にまとめて報告します。倫理審査委員会での承認の程よろしく申し上げます。

Ender nailing proves effective for treating intertrochanteric femur fractures following hip resurfacing arthroplasty

### 倫理上の問題点

- ①研究発表に際しては患者の個人情報に留意してデータを使用する。
- ②治療対象者には治療、学術発表および論文の趣旨を十分に説明の上同意を得る。

# 倫理審査結果通知書

申請者 池上 徹 殿

2024 年 8 月 23 日

倫理委員会委員長

西 宏



印

受付番号 2024010

記

審議名 表面置換型人工股関節術後の大腿骨転子部骨折に対するEnder法

上記にかかる審議を 2024 年 8 月 23 日 の倫理委医会で審査し、  
下記のとおり判定しましたので通知します。

判定 非該当 承認 条件付承認 変更の勧告 不承認

理由

患者の個人情報に留意してデータを使用しており、  
治療の対象者には治療、学術発表および論文の趣旨を十分に説明の上同意を得ている。

その他

学会名 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会  
締め切り 令和5年7月30日正午  
演者連絡先 池上 徹  
指導医 藤岡幹浩先生

演題名 表面置換型人工股関節術後の大腿骨転子部骨折に対する Ender 法  
池上 徹<sup>1)</sup>、藤岡幹浩<sup>1)</sup>、杉谷和哉<sup>1)</sup>、長谷 齊<sup>1)</sup>

1) みどりヶ丘病院 (整形外科)

**Department of Orthopaedics Surgery, Midorigaoka Hospital**

【はじめに】表面置換型人工股関節 (SHR) 術後の大腿骨転子部骨折はまれである。SHR 術後の大腿骨転子部骨折に対する治療法の選択として保存療法、髄内釘、sliding hip screw、人工股関節再置換術などが挙げられる。今回 SHR 術後に生じた大腿骨転子部骨折に<sup>対し</sup>て Ender 法を用いて内固定を行った症例を経験したので報告する。【症例】88 歳女性。認知症の既往あり。他院にて 15 年前に SHR を施行された。受傷前の ADL は独歩であった。トイレに行こうとして転倒し手関節、腰部、殿部を受傷した。単純 X 線像上橈骨遠位端骨折および大腿骨転子部骨折を認めた。高齢で認知症の既往もあることから除痛を優先するため Ender 法による内固定を施行した。後療法は橈骨遠位端骨折も合併していたため 2 週間免荷の上、疼痛に応じて全荷重を許可した。術後早期に股関節部の疼痛は軽減したが Ender 釘を刺入した膝関節内側部の疼痛は残存した。術後 1 ヶ月経過した現在杖歩行可能、段差昇降も可能な状態に改善を認めた。【考察】高齢で認知症の既往がある患者にとって長期の臥床は全身状態や認知症の悪化が懸念される。Ender 法は軟部組織に対する侵襲が少なく患者への負担が少ない。Ender 法を行うことで疼痛を軽減することができ、早期の離床が可能となり廃用を予防することができた。

569/650 文字

登録番号 : 01197 PW:Kamo251